
自ら考え、豊かに表現する児童の育成

～新聞に触れ、新聞から学ぶ活動を通して～

四国中央市立北小学校 R 8. 3

1 はじめに

本校は、四国中央市の北西に位置する全校児童 100 名の小規模校である。学校の教育目標「進んで学び、心豊かで、たくましく生きる北小の子どもを育てる」の下、地域と学校が一体となって様々な教育活動を行っている。本校の児童は、素直で何事にも興味を持って取り組む児童が多い。しかし、自主的な家庭学習や読書の習慣はあまり身に付いておらず、読解力・思考力に課題がある。新聞を購読している家庭は全体の 24%と、あまり新聞に触れたことがない児童が多い。

昨年度より実践指定校となり、新聞を生かした教育活動の研究に取り組んできた。まずは新聞を身近に感じることができるよう、子供向けの新聞を読む時間を設けた。また、学習者用端末を生かして②スタの記事を読んだり、クミハンを活用して新聞を作ったりする活動も積極的に取り入れてきた。実態把握のためのアンケートによると、「(紙の) 新聞を読むのは好きですか」という問いに 55%が肯定的な回答をしたのに対して、「ネット上でニュースを読むのは好きですか」という問いに 74%が肯定的な回答をしていた。このことから、日常生活の中で主にインターネットを利用して様々な情報を得ており、デジタル機器を活用して情報を得ることに親しみを感じていると考えられる。

2 研究のねらい

「自ら考え、豊かに表現する児童の育成～新聞に触れ、新聞から学ぶ活動を通して～」

3 研究の内容

- 新聞に関心を持ち、さらに身近に感じられるように、日常的に新聞に触れたり新聞を読んだりする活動を行う。
- 教育活動において新聞を効果的に活用できる場面を見極め、カリキュラムに位置付ける。各教科や単元において児童に身に付けさせたい力を明確にし、新聞を取り入れた授業づくりを行う。
- 読解力・思考力の向上を目指し、新聞を「知る」「読む」「作る」活動だけに留まらず、新聞から「考える」「話し合う」「生かす」活動を行う。

4 実践事例

(1) N I E コーナーの整備

本校では、以前から子供向けの新聞を購読し、掲示委員会の児童が毎朝新聞ラックに入れ替えている。昨年度から置き場所を高学年の教室前廊下に替え、

児童が気軽に手に取れるようにした。複数の新聞社から子供向けの新聞を購読するようになると、10日分ほどをまとめて各クラスに回覧するようにした。常に教室に新聞があることで、読書の時間に読めるようにしたり、担任が記事を紹介したりする良さを感じることができた。その他にも、階段の踊り場に児童が作った新聞を掲示するコーナーを設けた。校長室の前には児童の興味を引く記事を紹介し、校内全体で新聞を身近に感じられる環境づくりに努めた。



【校長室前の紹介記事】

(2) N I E タイムの実施

今年度から毎週月曜日の朝の時間をN I E タイムに設定し、各学年の実態に応じて、新聞を活用した取組を行った。

1年 「こんなきじを見つけたよ」

平仮名が読めるようになった2学期頃から、気になる記事を紹介する活動を行った。記事を選んだら学習者用端末で写真を撮り、ロイノートの共有機能を使いながら、ペアや全体で選んだ理由を伝え合った。最初は写真だけに注目しがちだったが、次第に見出しから内容を伝えたり、自分の体験を交えて感想を伝えたりすることができるようになった。



【選んだ記事を紹介する様子】

2年 「新聞クイズをつくろう」

子供向け新聞の記事からクイズを作り、問題を出し合う活動を行った。この活動を通して、記事をよく読み、膨大な情報の中からクイズの種になる核心的な情報を見付けることができるようになった。また、自分が作ったクイズを友達が解くことで記事への関心が高まり、相互に学びを深めることができた。



【新聞クイズを出す様子】

(3) 出前講座の活用

6月下旬、愛媛新聞社の方を講師に招き、出前講座を行った。授業は2学年合同で行い、低学年では「新聞を広げてみよう」というテーマの下、グループ活動を取り入れながら紙面構成やレイアウトの基本を学んだ。3年生以上では、「新聞の基本を知ろう」というテーマで、記事の書き方や見出しの付け方、レイアウトの工夫についてより具体的に学んだ。

3年 「りんぼかん新聞を作ろう」

出前講座の後、3年生ではクミハンを使った新聞作りに取り組んだ。直近で行った校外学習を題材にし、学んだことを基にリード文を考えた。「誰が」「いつ」「どこで」などのポイントを押さえながら文章を書くと、読み手に分かりやすく伝えられるということを実感していた。その後の校外学習後においても、学んだことを新聞にまとめる活動を行ったところ、リード文の書き方をよく覚えていた。書く順番を工夫したり、2つ以上の見出しがあるクミハンの型を選んだりするなど、個々の能力に応じてレベルアップを図ることができた。



【児童が作成した新聞】

(4) 授業実践

特別支援学級「花組コラム」

テーマに合う記事やコラムを読み、自分の考えをまとめる活動を行った。2年生の児童は、秋に関する記事や写真、クイズを読み、集めた言葉で歌を作った。4年生の児童は、詩のコーナーを読んで印象的な言葉や表現について学び、自分で詩を作った。教科横断的に学び、様々な語彙や表現に触れられるという点で新聞を活用することの良さを感じられた。

4年 国語科「新聞を作ろう」

相手や目的を意識した記事を書くことをねらいとして、グループでの新聞作りに取り組んだ。ロイロノートを使ってクラスの全員にアンケートをしたり、校長にインタビューをしたり、記事を作るためにそれぞれが工夫をしていた。アナログとデジタル、それぞれの利点を生かして新聞を作ることの良さを感じていた。



【インタビューをする様子】

5年 国語科「新聞を読もう」 総合的な学習の時間「環境新聞を作ろう」

5年生は空き時間に自主的に新聞を作るくらい、新聞に対する興味・関心が高い児童が多くなった。国語科の「新聞を読もう」では、出前講座で学習したこととリンクさせながら新聞に対する知識を深めた。総合的な学習の時間では、自然の家での体験や環境について学んだことを新聞にまとめた。普段からクミハンを使った新聞作りに慣れ親しんでいることから、一人一人が自由にレイアウトできるように Canva を使うことも可能とした。文章を書くことに慣れ、自分で紙面の構成を考えたい児童にとっては、選択肢が増え、より分かりやすく伝えたいという意欲が生まれた。

6年 国語科「インターネットでニュースを読もう」

9月に市の教科等研究会で授業を公開した。今回は「日本の出生数が70万人を割った」というテーマを取り上げ、地方紙、全国紙、インターネットニュースでの記事を比較した。それぞれが特色のある伝え方をしていることに気づき、同じテーマでも伝わる印象が違うことを実感していた。授業の終盤には、このテーマについて自分はどうか、話し合いを行った。そこでは、複数の視点を持たせるためにニュースサイトのコメント欄から様々な意見を提示し、自分の考えに近いものを選ばせるようにした。

ネット上のコメント欄は匿名性が高く、不確かな情報や偏った考えがあるというポイントを押さえた上で話し合いのヒントにすると、「同じテーマでも様々な考えを持つ人がいる」ということを実感することができた。新聞を通してものの見方を広げ、相手の立場を尊重して自分の考えを伝える力を育成する実践となった。



【自分の考えに近いコメントを選ぶ様子】

5 成果と課題

- 出前講座を通して、専門的な立場の方からの学びを得ることができた。児童の感想欄には、この出来事がきっかけで新聞への理解が深まったことを書いていた。出前講座で学んだことは、その後の新聞作りだけでなく、普段の書く活動においても相手に分かりやすく伝えるためのポイントになった。
- 昨年度は新聞を読むことから始めたが、今年度は新聞を作って発信したり、新聞記事を基に話し合ったりするなど、様々な角度から新聞の良さを感じることができた。特におすすめの記事を紹介し合う取組はどの学年も取り組んでおり、多数の児童がこの活動が心に残ったと書いていた。
- 子供たちの活字に対する抵抗感が減少した。アンケートの「以前と比べて、初めて読む文章の内容が分かるようになったと感じますか。」という問いに対して、80%の児童が肯定的な回答をしていた。新聞を手に取り、まとまりのある文章を読む機会が増えたことで、内容を捉える力が身に付いたと感じられたのではないかとと思われる。
- 12月に行われた5年生の県学力診断調査では、国語科、社会科の記述式問題の正答率が県平均より高かった。本校の児童が課題としている読解力や思考力に関して、少しずつ力が高まっているとも考えられるが、普段の様子を見るとまだ十分ではない。学力向上につながるN I Eの取組を今後も検討していきたい。
- 今後は、N I Eの取組をメディアリテラシーの育成へとつなげたい。誰もが情報の受信者であると同時に、簡単に発信者になり得る今だからこそ、子供たちが誤情報に惑わされたり、発した情報で誰かを傷付けたりすることのないように、N I Eの取組で身に付けた力を日常生活に生かせるようにしていきたい。